



病家須知卷之三

小兒を養育する意得を説

小兒小乳を與る少をよしと過る停滯必病の原也
 齒生齊て後乳を用む飲食小く養育の自然の理なり世人
 ら齒生そろい後猶乳をのみ用るものあはれを宜
 らど三四歳以上小いたまもかほ乳の之を專小喫めて穀
 食せぬ小兒の物も傷やましく生長の後腸胃必脆弱
 穀肉コクニク小にても纒ツカ小過スグまばタヘそま小堪タヘどタヘ病と成故小齒
 生てより乳を減して先稀粥やうの物より漸小喫慣クヒナレ後
 後ノチ穀メシを專モツ小用べし小兒ニ成育ソダツる小ハ三分ノの寒カン一分ノの飢ウエを帶オハ

卷三

一

擇て學べきこと小簡からむ。兒の身小暇あらしめむ。放肆を
戒ん小へ志のば。か、ま。體必健小く病かく。慣て常をなれむ。成
長くもの、用小もたち。世小崇重る、人ともならん小とる。小は
親の真小子を愛するものといふ。子成かくの、おとく教導を
却る易小と小く。病かき身小灸火の熱をうけ。苦藥を嚙せらる
れほどの惱もある。小賢愚の殊ありといへども。受
得たることあるの性も善小も惡小も習やまきもの小く。幼より
親の教諭よろしからむ。惡友小交ぬと。端人とある。小は酒色小耽懶。小ありて。小は草木の枝も嫩小撓むといふやう
小ち家の衰と來身と区あり。草木の枝も嫩小撓むといふやう

小もな。餘大枝剋あり。小は未成人小戒。壯健に。忠實ある人と成小とる。全親の心
にある。小は堪べき。小は脆弱多病乃兒なりとも。小は灸藥保護のいと
は小。堪べき。小は必勤く。身體を運動し。漸小學
べき。小は伎藝を教ること。小は灸藥小も優る。効ある。小は
め、愛著小溺て。怠弱小ならは。小は稚より小を導
小との道あり。古人の語小。世小も愚なる小と多し。人乃子
を善育る小とを。知む。いま小。小は授んふといひ。小は是人の不注意とあり。小は萬事小わさりて益ある誠なり。

世の人孫子の榮を希ん小ら。貴賤とも小との用意ある處きよ
ごか。假令達官重祿の子ありとも。幼より放恣小からぬやう
小教育るおとら。その保傳おとの心小あるべきおとぞ。幼よ
里もの小慣く。寒暑小も堪らる。體みらば。尪弱小て。國家と治
るおとも爲おたく。も一木軍の將こ。陳營小臨とも。いづく
う令を下し。衆と部署とるおとのなるべ。賢徳ありとも。病あり
く。我の効の於。おらば。清平の御世なりとも。武
家小も最大の遠慮なく。て。おらば。か。おも。なる。なり。

産母自兒を乳養を理とこく

胎兒と母の血肉を分。乳汁も同體の血より釀成もの小く。其

兒小賦與べき小定さるものなり。故小兒小病なく。健小成長
おとを承おと。其母の乳を以て養小く。おと。是天然の道
理小合あり。兒のこらば。母もま。乳養のあひ。平素より
も病少く。腹中の運化よく。兒小乳を與るうち小死ぬる。と
の病あるも稀あり。予常小孕婦小會。必力く。おとを説。驗
を得。おと多年あり。か。假令富貴の家。の婦人なりとも。そ。乃
兒を寵愛する志深。抱撫。他人小任。乳ハ自與べきおと也。
おと。あ。身小病あり。乳質の美。おと。婦人。は。用
捨あるべきことなり。兒小乳を與。おと。遅と世の人。い。と
も。おと。大。虚言なり。我の自乳養もの小年。小産。或。隔

小兒をそとつるふら。あがりあは庭まの巷小ても。そらなら地上小あをバーぬ。あつをさるるの外。あるたけ風日小あのあたる。生長小もつとも益か。初生の兒もそらなら臥蓐小くもあら手足をうごかし。せよと移るるころよあら。なるをたけ身を自由小させ。せよとひまへるやう小せるふよ。りあうざれば體のこのまらかそ。かあらを病かやうらむ。尙儻るといふ病も。其父母の遺毒より發ものごとくも。あまり小抱のへのしてそとつたる兒小あかくある症あり。せむをうとふる小兒のこめ小。小車とこらへ。兒の脊中のたうたをあらへてまの横木のあたるやう小。めらむらうららのこのへようか。らせ。前小のへらぬやう小して。家の中まこら往來と



桐

そらくとひきくあをむむ。こは小よりくその脊槌をためてこをあるぬ。歲月をつま

漸小治べた活用の法
あるにやくその意
を得くやどこはべ



年小必孕く。母子とも小健あるもの。常小みることあり。却く乳を與むく多子を産むもの。其の兒必脆弱して死ぬるもの多し。おま予の素小注意歴試とあり。まゝ或るいふ兒小乳を與る婦人姿色をやく衰と。おまよと道理小昧ものいふおと小くも。おより妄説なりと知れし。

乳小よりて兒の氣質を轉むる理をこく

乳媪小病ありく兒小乳を喫むむさ。その病必其兒小傳染こと。ももとより論なり。その他情慾の發動思慮憂愁の微なるも。其兒必感動しく自然とその氣を冒病なり。志るるあまども。明著たるおとまら辨知ざる人多き世をましく隠晦するハ一のこと

毛認ふたきおと多けまとも。おま歴然道理なれど。心を注ぐ察とべきことなり。最兒必その乳養を婦人の氣質小似るもの。おれことハ。證驗く的小知とありなり。志るるを乳媪ももとより備賤女奴身を措小とありなく。己の愛兒をとて、顧む。薄俸錢のため小身體を委他人の兒を長養もの。其性質の温厚小く。殘疾のなきも少なり。人の親たるものあ、小意を注さるる。お小慈愛なき小あらびや。

自乳養ふとあたへざるものを説

産母の乳粗糲しく。他の兒小與くハ。忽小吐を誘。あるひは青糞を。ご下利やうなるも。自己産とありの兒小與と。多ハ。其の害あ

るをさざるものなり。されども自乳養兒の育る秘く。いつも襁褓
裡小死ぬる。或る母殘疾ある。微毒勞瘵。まゝら劇癩疾顛
癩などの類。或る乳癰などを發し。乳頭裂傷。つね小薄弱多病。月
信不順。或る乳乏少兒小給小足。まゝらさまぐの疾苦勞困あ
ま。自其兒を育るまに能。或る稟得く乳頭絶小兒の口小衞
足。ばら大小く口小あまる。或る舅姑父母多病老耄して。
給侍小間あ。孝養のため小ま。の等ら。おま止あ。とを得ざるの
策小く。もとより安逸怠墮より出ざることなき。わやく乳媪の
性質善良ものを擇くその兒と託せよ。よりくその大要を下小
示とみる。を。

乳媪を擇く。ろえをこく。口小衞大なること
乳媪を擇小。齡二十歳より三十歳左右を程とせ。且兒の
母と同時小産せしを第一小よ。と。五六月の差ある先可
かり。乳媪の産の較遅のまよけまども。それまあま。小後た
るま好。のらむ。ま。のあま。ども。次小舉。ま。の撰小合たる。ん
又捨べき小あらむ。と。了解。生兒の母齡弱ハ乳母もま。若
のよ。面體。豊満。して。渾身瘦。骨高。らむ。い。の。小。も。柔
和小見え。顔色光澤あり。齟の色浅赤。口氣臭。らば。皮膚小
惡臭。なく。身小瘡痕。なく。癬疥等の瘰も見え。坐小つ。き。前
へ屈む。頭斜。音聲濁。なく。言語諫。らむ。氣質の凌厲。らぬ

やう小見えミ體タマ小微スミも缺クなるこコおろロあきキものモノ。病ヤマトもモあアくク心ココロも
和平オクサカある相カタチ状ジヤウあり。さサもモかカくク具ツナソロヒ足ソロヒたる乳ウバ媪バ々バ得エるたタきキも
の小コ。たタゞゞおオまマ小コ類ニヨリ似ニたるものモノ。いイるル小コもモ壯スコヤカ健ケンありとトかカもモと
ふ、ものモノあアらラぢぢ。先マツその乳チを出デさせセくク檢ケンべベし。その將ツレきたタるル兒コ
をも意ココロを認トメくクよく見ミるルをヲ。卑イセキモン賤センの兒コあアまマへヘ。稟サマシツキ賦キも自然レセンと劣フシ
もの多オホけケとトも。疾アルトナレトの有コノロツク無ムを注コノロツク意コノロツクをヲ知チるル、そのコありリ。兒コ小コ疾シヤク
ありと見ミらラ。母ハハも故レサヤあるルをヲ慮オモヒくク。猶ナホ詰ツメ問トヒべきキおオとトありリ。
乳ウバ媪バの年トシゴロ齡ロより乳チの老フケ見ミゆるものモノ。おオまマ必カナシク多オホク産ウマの婦メナ人ナ小コ
く。先マツ乳チ汁チ多オホクらラぢぢとトかカもモふフをヲ。
乳チ頭マメ々々色イロ赤アカクワヤ澤ツヤありリくク圓マロクモモ下タシ小コ垂タシむム。兒コの口クチ小コ銜フクム小コ適ニヨク大オホクならラむム小コ

のらノぢヂ。乳チ汁チいイるル小コもモ饒ウツクシ多オホク小コかカもモへヘるル、をヲよヨしシとトも。
乳チ汁チ々々色イロ白シロキうウちチ小コ微スミ淺ミツアセキ碧アヲキ色キをヲかカひヒ。異マフノホヒ臭ホヒのノあアきキをヲよヨしシとトも。單ヒト
小コ白キもモよヨしシ。黃キあアるルとト赤アカキあアりリ。
過オホク小コ濃コキ々々好コトクしシるルらラぢぢ。稀ウスキらラぢぢをヲ良ヨシとトも。器ウツ小コくクもモ爪ツメのノ甲カウ小コくクもモ
滴シタリるルをヲ瀉タタクさサぢぢ。過オホク小コ流カハレくク餘ノコリ残ノコリあアくク。あアとト小コ白シロキ條イトとト曳ヒクおオとトあアきキ
をヲよヨしシとトも。
味アミ々々單ヒト小コ甘アマキとト良ヨシとトも。鹹シホケ味ケまマさサらラ酸スミ苦ニガミ味ケあアるルものモノ。その乳ウバ媪バ
必カナシク疾シヤクありとト知チべベし。
澱オリあアるル善ヨシらラぢぢ。よヨきキ乳チ小コをヲ微スミもモ澱オリらラぢぢあアきキものモノありリ。そソはハ成ナリ
驗ミロム小コへヘ。白シロキ硝ヒト子ヒト壘トク小コ納イルくク。閑シツカレトコロ慶ケ小コ去サばバらラくク安オキくク後ノチよヨくク透スカシムル觀ミルべベし。

澱も底も沈ものあり。

乳汁を眼中に滴り驗べし。質鹿を必滲透し疼を知ものあり。乳

を検し空腹あるを良しとせし。おあへ來まへ小藥を服

たるやいゝと問て。もし然らば三時許を過し驗を。藥より

乳の色づれ香氣の發出とあるものかれを辨むたきおとの

あはちかり。

件の試験を用く。參互に検査べし。世に無病ある人を稀なりと

いへども。乳質善らば補給小兒の意表疾傳染し。いゝ小とを

べのらざる小いこと。忽畧小をべきおと小わらも。猶次條と

參校よく識得べきおとなり。

乳姥攝養の意得を説

上件小陳とまろの撰小合たる良乳媪ありと。平素の攝養の

しけは。よき乳汁も性變くわくあり。饒あるも乏なるもの

みま。朝夕小意を注べきの第一あり。乳姥の多々卑賤ものな

と。放逸小成立く禮節を知たるも少あり。故小率小儀容整は

家風小從しめんとして。必心志舒暢を。抑鬱て疾とあるおと

あり。そままで小いしらむとも。よき乳質頭小變耗損し。兒小

給小たらぬやうにあるを。預めをその初小慮べし。若

の正とくその我意小任放し簡率ならしむま。良易のものも

悪ら小を轉やをきからひま。兒をまよその氣小感く。後

善らぬ氣質の人とあるを。乳媪小藩行ありて遂小者宿
たき小いさるも。初の嚴らぬより起るゆゑ小。必々諸般の所
作をべく乳媪の勤べきおとち。便宜小おたひおを定か
く。怠墮をらむをらぬ。たゞ小兒小のミ拘る行樂安逸小せ
しむをらぬ。體を運動おと希をせぬ。腸胃の傳化わくかり
く。乳汁變敗を招の患あり。故小兒を看護する餘力小。事定さ
る仕務浣濯使の他まづも。あるをたけぬ體の運動やう小
せしむべし。もと俸金を求るおため小來をのせぬ。過當の金
銀と與てその意を慰愉しむとぬ。いさやう小も使役ものあり。
假令貴人の乳媪なりとも。多の俸祿を小給かぬ。乳養の暇小

ら他の事を爲しめ。最益あるおとあり。必しも逸樂せしむを
たおと小あらぬ。と乳媪攝養の第一とせるとおろかり。はこ
乳母の始を饒多ありと見えし乳汁忽小乏あるを。世の人多々
兒を看護小心を勞め。等輩の交小思を費ゆぬとの思へり。そ
の事かといふ小をあらぬ。疇昔まづ々家裏厨房の作業
小體を勞したるもの。俄小飽食暖衣。兒を看護するの外小
所作かき身とある小より。腸胃の運輸あしくあり。乳汁を醸
成の原を損おと。上小もいふごとくあるを。たゞ心志の勞怯
このミかもふちいたらざる意料あり。
乳媪の食料を。平常小變おとをを良とせ。別小佳肴美味を用

るち。か。居。つ。く。消。化。を。障。礙。小。い。た。る。べ。し。山。村。僻。陬。の。婦。人。の。常。
小。蔬。菜。の。み。を。喫。く。美。食。小。乏。き。も。の。よ。く。數。多。の。兒。を。乳。養。小。あ。
ま。り。あ。る。を。も。見。よ。ま。さ。の。と。る。害。こ。れ。ハ。利。ら。む。と。食。小。禁。忌。
を。爲。小。も。及。む。た。酸。味。の。過。た。る。も。の。と。單。小。鹹。も。の。と。酒。と。果。
常。食。を。ち。禁。べ。き。お。と。あり。菓。の。類。も。甜。瓜。を。除。の。外。も。害。あり。と。
ら。見。え。む。た。過。食。し。む。る。お。と。あり。る。を。し。味。醬。汁。多。喫。し。め。て。
よ。し。魚。肉。も。煮。汁。あ。る。も。の。尤。良。煮。く。日。を。經。た。る。肉。塩。藏。肉。蕃。椒。
の。類。も。禁。た。る。も。よ。し。
乳。媪。飲。食。後。直。小。乳。を。喫。し。む。る。お。と。あり。と。
大。小。空。腹。あ。る。と。き。乳。を。與。べ。ら。む。と。

憂。愁。歎。歎。の。後。俄。小。乳。を。喫。し。む。る。お。と。あり。と。
發。惡。お。と。あり。と。の。ま。小。乳。を。銜。し。む。べ。ら。む。と。
驚。怖。お。と。あり。と。乳。を。喫。志。む。る。お。と。尤。害。あり。
か。小。に。く。も。疾。患。あ。る。と。き。も。假。令。微。恙。あり。と。も。乳。を。與。る。お。と。
良。の。ら。む。と。を。傳。く。兒。も。そ。の。害。を。う。く。る。な。り。
月。經。小。あ。り。た。る。と。き。小。乳。を。喫。し。め。む。し。て。事。た。ら。む。經。行。止。ま。
で。む。あ。へ。た。る。と。も。つ。と。も。良。し。
乳。媪。疾。あり。と。下。劑。を。服。く。下。利。止。さ。る。あ。ひ。む。小。乳。を。喫。志。む。と。
ら。其。兒。も。必。下。利。を。も。よ。む。と。
乳。媪。の。夫。を。り。く。會。合。さ。る。と。と。嚴。制。べ。し。慾。念。を。發。お。と。も。

良ヨシらむ。故ユエ小の秘ヒより男女の區別ワカチを正ただすべきことあり。
乳チ温バ平ヘイ素ソ酒ジュを嗜コヒく喫クむ。その兒も成長セイチョウして必カナラ酒サケを飲ノムむ。且カ乳チ
質シヤク渾ア濁ニクむ。暗イ小兒ヤシの病ヤメの原モトなる故ユエ。尤モトモト飲ノムむを制セイべし。
喜チ眠タカ乳チ燒クら。や、ももを食クむ兒コを害ガイする小あり。稟リョウ賦ヒ寢ネむ。覺サ
たき婦人フナの乳下チノシタ小兒コを壓殺オシコロシたるを。數人見聞アタタミキたり。恐慎オシクシムべ
しことあり。

性ウ淫レ亂レふりと見ミば疾ヤ小放遣オヒイダスべし。尤モトモト小害ガイあるものあり。
多言ヨクシヤモノものと。輕脫ソコツあると。乖巧ワルカレキと。踈放ヤリハナシあると。偷安ナマケものと。および
善竊マスマシある乳母スミヤカを速イ小放逐イハツカスべし。
其他ホカ善ヨらぬ癖好キヤクある。銜言遁辭マシヒナリヒマシと。虚妄ソラゴトと。まわするもの

のたぐひ。みか兒ミカをくくその氣質キヤクを受ウケむ。
殘疾アヘレヤメある小と後アト小發露イラヒむ。一日も遲疑ニクコすべき小あらば。その
乳チを喫クむ。必定ヒツヂヤウ兒コ傳ツク染クる生涯シヤウカイの害ガイなるべし。必カナラ々ツツ愆滯チンシヨウ小
をべき小と小あらむ。息肩カエて後アトも猶ナホこまらぬ小とに細意コソクコソを注ミ。
も一かゝる小とあらば速放逐ハヤクイハツカス後アト兒コの抵當テアテとく後アトの害ガイを避ヨク
べし小となり。
右件ウヘち。多年試コトシく。的實タシカ小知チとあるあり。名利ナリキ小のみ走ハヒて事理ワザノリ小
精クシらぬ。鑿生小イシヤ。前件マヘの小とを問トヒたりとも。毛モウ一イツ踈妄ソウマクある答コタヘを
聽キむ。疑惑ウタガハシ小とも起オコべし。毛モウ一イツあらん小益ニキなきこと小あり
もせん。よく思オモべしこと小あり。

初生の小兒小乳を用る意得をこく

小兒産出後母の乳の出る時を始て乳を嚙むる期とす。齒生具とき成飲食と與る期と意得べし。とあるはあまごも母産前小疾ある。まご生質怯弱ある。多産の後小く乳の出る。あまごあまりに遅る。乳汁きへめく乏少もの。まごあまの例あらむ。とある時宜小從べし。あるはたけを母の乳の出をまちたる。よ。小兒啼くとありとも。必虚中ある也。と思ことなる。乳汁をその兒小天より賜るとあるの俸禄ある。母の乳の出ざる前小餓を知ると決りかたものあり。ちるくは狗猫の子と育ると見てもその道理を知べし。狗猫も自然と子を愛

とる情をあまごも己の乳の出る期から初を子小嚙むる。とあたへむ。人々却く黠才ありて。兒の啼を聽て乳を求るならん。母の乳の出るをまご。天地自然の道理小背て。兒として終身の患を抱むるも。狗猫も劣たるまごあり。生母の初小出る乳汁小。自然小兒の胎尿を除去の効を具へ。樂小も優たるものなる小。其色味の常小異なるを見て。性あしく毒あるものありといひ。必粗去べきまご、意得ざる俗習へ。あまごも嘆へたまごあり。か初く乳媪をしく養育せしめんとおもふ。儲ある高貴の人ありとも。造化の妙理を精察べ。まご初出とあるの乳をあまごさらのまご。あるはたけを自身の乳小く養育

て。看護をの里を他人小委たるるさよろし。初の乳汁の効ある
のさあらむ。生母の乳小く養ひ。小兒も母も益あるおと上小説
おぼとし。が、る道理を辨知く。予の教小從ひ。その心を推て
切の車自然小背おとなららんも。こと天命を畏るもの小く。其
兒の後榮をも期さべきあり。貴も賤もよくく顧慮あはるさ
こと小あらむや。

乳不足したるとききの心得を説

上小いゑるおとくおまら。假令兒の飢さるとききありとも。他人
の疾あるもの小乞く。乳を嚙むるおとくを産らば些少を
里とも害を被まこと知る。おとくあはれとも著に熱ある病な

この外も。潜く見おさく蒼卒小く辨別おたきおとあり。その時
小くまづ乳を乞うけんとおもふ人の産たる兒を。意を注ぐ者
べし。兒小病あく。顔色光澤あり。健小成長おまら。その乳小い
づ毒あくと預察べし。さる乞うくおたさるもなく苦たらむ。木
麥一二勺むりよく洗く後。水をよき程小入く文火小て煮熟
し。滓を瀝去。その汁を再火小上。冰糖末を釵子の耳のき小一を
の里入く。味乳小似たるを法をさべし。そ色より陶器小瀉。喫せ
んとおもふおと成分く重湯小温く。お色を竹筒小乳頭状を製
て兒の口に銜るべし。やう小志たる小盛く嚙むるあり。その
頭々紅緒の類をもちひ。綿あるひの撒布糸をまらぬ。乳頭より

や、小チららんとおもふほど小ツムく暴ツムまり。薬キタスリヤ舗小ウル鬻ウルとありの
乾キクノハナ黄菊花を用るを尤モトモコレ良ヨシまこと常ツチのやう小コレハ製コレハたる乳チ頭マメを蓋フタ
の邊フチへかけ指ユビ小コくおさへ。徐ソコク々と蓋フタを傾カサく吸イマしむるもよし。も
し小チら小コく喫クの乳チとるに小チへ。比ヒ小コく抄スグヒ入スべし。蛤ハナリカヒ殻カと
を用るもまたあしおらむ。世セ間ケン乳チの粉コといひく白レロキコ屑コと水ミヅ小
煮ニて用るものあり。是コレモチゴメノコ糯ヌ米粉コ小コく製コレハたるもの小コく。脆カヨクキコ兒コと小
る停ツカユル滞チとあり。其レの麥ムギノユ汁ジュのあり。日ヒト々ト小コ煮ニて用るを炎ウツサ熱ネツの
頃コトといへども腐クサレ敗コロシ患ウケもあく。且ツラヘ化コナ易レヌクくもの乳チの粉コ小コくたる
の小コ優マセ王ウ産ウミく四五箇カ月グヅを過スたる兒コと。こ色のこ小コくも養マウ育イクせ
らるる也ナリ。異ヒト邦トクニ小コく牛ウシノチ乳チを用ると聽キり。牛ウシノチ乳チ新アタラシキ鮮キもの日ヒト々ト得エら

るべくも。其レははと惡クといふ小コのあらねど。此コノ方カタの人ヒト小コ如何イカニあ
らん。醇オモクシク厚ツカユル泥ツカユル滞チとあり。其レの乳チ牛ウシノチ乳チを畜カフ
を畜カフとありも稀マレとあり。此コノ車クルマの予コトもいまも試シロシむ。たゞ其レの麥ムギノユ汁ジュ
の製コレハ易ヤシク用ユやとあり。如ニとどおもたる。

小兒の薬を母及乳媪小與て効ある意得を説

小兒病あるとき。いゝやう小コくも藥クシを服クシ得エざるもの小コく。其レ
藥クシを兒コ小コ與ユるよ。四五倍バイの分量ブンリヤウ小コく。母ハハも小コくハ乳チ媪バ小コ服クシ
しむ也ナリ。必カナラシク兒コ小コ効カクあるものあり。最トシテ瀉クサスリ下ゲ劑ザイと用ユべ。兒コ病ヤメ小コく。
母ハハ乳チ母ハハその藥クシを服クシとき。小兒もまた母ハハ乳チ媪バの下クダル利リあり。其レ
小コ必カナラシク大オホク便ベン瀉ゲものあり。小兒の藥クシを服クシるぬるを強ツヨク小コ服クシせんとい

ても。咽と下ざるのそあらむ。嘔吐を發せとあり。かゝるこ
き乳を嘔むるもの小兒。必効ありと意得べきとあり。
かく著し道理を知べ。乳媪もくも母の性質。飲食。および病
の忽小あらぬとをも辨ふべきことなり。まゝ怒る。小兒の啼
拒もの小兒。強て藥を服しむる。大小酌用あると小兒。最乳を
の里小兒。育ある。病小兒より。煎劑丸散の苦滋味のもの。却て
吐を誘ふ。是よりく大患とあるとあらむ。是又心得あけ
ハあらぬことなり。

初生兒の粘涎黒尿を速に除去すべき意得を説

小兒産出。粘稠たる涎を吐出し。胎内小兒あるあひご腸中小蓄

たる黒尿を下去もの。其の常あり。其の涎を吐盡さば。後
撮口驚口瘡あどいふ危急の症を發し。或る眼疾口病等あり。
或る馬脾風とく喘哮劇息を内へ吸さば。小兒會厭つまはり甚
苦症あどをも患ふとあり。吐乳もこの涎を吐ぬ小兒小多ある
ものあり。胎尿下ぬもの。其後腹痛播擲を發し。驚癇を患ふ。
左あきり痺疾。或ハ蚊蟲あどの患あり。吐乳も去易もの也。其
涎尿より發病多けと。必忽とべらむ。涎尿を速小吐下さ
て急乳を銜し。後ハ其の物胃管より腸裡へ粘着し。いゝあ
る峻劇吐下劑を用ることも出るとあり。鴈胡菜和名まくらと
いふ草。粘稠たるものを除去の効あり。初生の小兒小用る

あとも。神代よりの遺方小やあるらん。我邦小の用慣異域
小またえく知ざるであらあり。あるを近頃華人の理小味
説小從て。耳連湯。まゝ効冬花。或も耳連大黃等。又も蜜藥あど
いふものを用く。初生の兒小與る藥をあ小ゆゑ小まくと呼
ゑと疑ものあたゝいゝ小どや。必々餘藥を用き小の鷓胡菜小
て車足ぬべし。あも多年予を試て知とあろあり。たゞ一味をも
用。或も鷓胡菜湯。まゝ鷓胡菜。大黃鬱金紅藍花。各小四味。何も
水煎く用べし。産母の乳の出さる前頻小服しめてよし。吐下
少小も紫圓を用るあともあもども。槩く服しむべきものと思
る失當あり。鷓胡菜を砂を篩去たるまで小くよし。藥舗小く水

小漬く到たるも効あり。濕あるまゝを自製て用べし。まゝ前小
ものいひおとく。産婦の初小出る乳汁を。兒の涎尿を瀉去べし
効を具たるものあもど。あもその色味あしどく粗去るきもの
小あらど。故に能此理を知く初出の乳を用るもの。鷓胡菜を
與ざるもはと可小似たも。微毒此土小傳致くよし。里人の體
小浸濡父母の遺毒もまゝ熾あるも。互用相扶て益あるあとも
まゝ多。涎尿を去べし。乳汁の自然と生むるあど。天地造化の妙
用を此一車小くも察しあべ。異域小知ざる鷓胡菜を此方小の
用慣たる小就て。邦人の稟賦の異あとあるも。まゝ明易あと
あらどや。

小兒吐乳を尤恐べし証あるものと試説

小兒故あくく乳を吐くはとあり。乳を過喫たるを考て。もし
あらば。速小停て一二時半日許も與るものとあり。飢來て後喫
しむべし。ある時。胃中の停滯する乳汁自然小下降て再吐
出ある。かくくも猶吐止とあり。與るものと小吐もの
是一時の停滯小あらで必病の徵ありと注意べし。いふある
故小乳を吐く。顛門及顔色呼吸。二便の通利まると互驗て見
るべし。聊も平素に異するものとあらば。登時小高手の醫師小認
て速治術を施すべし。乳を吐くやいふや癩を發し卒小死たる児を
數多見たり。緩慢あるも頻吐乳とさる。間あく衝逆ぞと思て忽

棄を登らば吐乳治さるあひさる乳哺常の半を減てよし。鑿
の高手なるものあき。寒郷あるとの鑿上小乏きとありふく。其
安小藥を用んよ里も。まづ乳を吐くはらく與どく。其動靜を鑿
べし。もし平小衝逆あるとあらば。鳩尾と左肋端乳直下小く腹部
の不容といふ邊を指頭小くあると按臍へ向く抑降やう小を
べし。あゝの鳩尾と不容とを按指をもろとも小撓かたやう小を
るをよしとさ。又と掌を伸たるま、小く小指のあゝの掌側骨
を鳩尾小抵當て下へむらひをくふやう小抑降もまたよし。指
下小動悸ありと築々と跳ぶおとくおぼあるもの。また小く抑
て緩べららむ。尤仰しむべのらむ。前へ屈もあり。常のやう小膝

へ抱イダの。高枕タカマクシ小卧コイむるのよし。一時トキ餘アトも手を放オクとど按オスく慢マンざ
色イロど。衝逆サレコミおほくを止トメべし。急イシヤ小鑿コウを迎ムカフるおともあらむ。藥ヤクの用
べきものもあくを。新汲水クミタテノミヅを小茶盞チャサン小半分コハンブンやとも飲ノミしめ。顔カホへ
も飲ノミるくを。苦味ニガイの藥クマリクミノイ。熊膽クマノイの類ルイを吐ハキあるもの小ハ決ケツしと服ク
しむべのらど。却カウて宜ヨシうらぬおとあり。その陀蜜オカミツ小く煉チリたる藥
おと尤禁モツモイムべし。治術レウヂ小粗コソき鑿シヤ工コウの劑クサら用ヨウて害ガイを爲ナスことあり。ま
まく俗傳シヨウデンの奇方キハウ妙藥ミョウヤクといふの類ルイも。安ヤス小投イダべたもの小あらむ。周
章顛沛テウセンペイの間マヒも。その處置テアチの差錯ササカヒ小。児コをいイく苦惱クナウを増マシしめ。そ
色イロのため小死シを促ウセおとあるを止トメむ。よく其用意ソノヨウイあるべたおと
あり。まマ吐チラ乳ハキ及ナシ癩瘰サシコシを發ハツしたる児コを發汗オセフトラセく即効シキを得ウケること

あり。そ色イロも周身シウシン小微冷ヒユをおほえ。皮膚粟起トリハダニナリタルを標的メアチとして行ユルべ
し。其時ソノトキ小く壯歲ソウサイ無病ムビヤクの婦人メナシ小。温飲オンイン熱食ネツシキを和ニどよくさせ。病児ビヤクコ
を懷小抱イダサて一時トキ許ヨクも温イダむべし。織悉オリシキおとる俗家シヨウカの會得エトクくおた
きこと。おともあ色イロも。おの編小舉ヘンつくさむ。まマして灌水クワンスイ及ナシ温浴法オンヨクハフ
を用ヨウて。驚癩キヤウラフを治チるおとき小いさりくへ。尋常ヨノツチの守株刻舟シユクカクシュの
鑿師イシヤも首肯シヨウケンせざる輩トモガタもあ色イロも。もとより此編小コノヘンといふべたお
と小もあらむとく措モダシぬ。おの病ビヤク。その初母ハジメの病ビヤクある乳ウチを喫クムしめ
たるよと得トクる。母酒メサケを喫過クムスゴしたる後ノチ小發オコシおともあ色イロも。おれま
さ意ココロを注モチヒく自己ジゲンの身ミを顧カウリべし。さりとけく乳媪ウバあとも病ビヤクあり
ても隱秘カクレシて告ぬおとあ色イロも。家人カナイも不屬意コノロフカスこと多オホシ。まマ世間セカイの

この「法」もとの掌側骨の
左の乳の直下の肋の下へ
のけく下へ按ことをよ
くこゝろえくよ



この鳩尾と乳の直下の不容といふ
ところへあたるとびさたを下へむけく按
こゝは本文小くところふ考あせく

施卷一

陋習アキマセ小て啼ナキせはる兒小乳を銜ウマめて。その啼を停トマんとするも
のあり。啼泣ナクときにも腹氣逆ハラノキき。その時用ることあるの乳もや、
もをもバ停滞ツカヘて消化コナレがたは患ウレヒあり。故小はあをさあへたあ
也。まゝ乳を與アタヘて後兒を揺動ユリウゴカスこと大小宜ヨロシらむ。あはらむを吐
乳の因ニツとなるあとあり。あはらの吐乳證ナラハクシヨウの容易イヨクイからぬあをを鑿俗イシヤシロヤ
とも小了解サトラせしむ。臍ホツを噬カムの悔ノヒあるへけむ。こゝを其幾微ソノハジメ
小防テマテしむ。必々忽棄ニルカセ小をべらむ。又青色アライロの大便ベンをさるあにあ
ま。あは腹中ハラノウチ大小ありまこころあるぞと思オモヒく。速ハヤクその用意テアテある
べし。母乳ナを喫クムたる故ユエといふに至愚アヲニオロカあるあとなり。あは青色アライロ大便
を通ツラざる兒も忽棄ユガシあらぬものなり。あはまごもその母乳母

小病あきぢ。兒の大便秘青色あることあり。とせも母乳焼の病を速施治をせべ。兒ハ自然小治をせごも。數日を歴するものぢ。兒もまゝ故あしとといひあし。よく思べし。

小兒の病も遺毒小因あし多き意得を説

小兒の病。十小八九も父母の遺毒より發もの多し。偶も乳媪の病を傳るもあり。今時小兒の己婉より多病あるも。多しあしの遺毒小し。その變を爲小い。とせし。後必痺疾驚癇種々の病とあるものなり。あし遺毒あるものぢ。假令幼稚の中小させる病なくとも。成長の後外より誘導ものあし。内より必動應トて大患とある也。故小遺毒ありと見ぢ。幼稚の裏より預治を施

て遅滞小しべし。貴人の兒の病小もあし遺毒小因もの多し。然るも。乳媪などより毒を傳る病とあるの類。必有べきあしとあるを。醫士もとせし。あし小ハ注意ものなく。とせし。其議小及せし。治法あしとく。差誤て猶悟ものなく。まゝ今世の醫俗も小初生の涎尿を胎毒と意得するものあり。も一毒ある兒あらば。あしをまゝ胎毒といふも可やうあしごも。胎毒ハ自胎毒涎尿も自涎尿小し。相混むべき小あらば。涎尿を多吐下つくりたるのみ小く。あし遺毒の血肉の中小潜藏て。時を待り發する者の根を抜きたらば。故小あしを治する小。年を積月を累漸を以せべき別小法方の自具ありと雖能其肯察を

得ざる者小ありざるより。所謂薬せどく中堅を得といふ
諺を信小如ト。安小治一得べき小あり補也。又小兒の頭小發
瘡を俗小胎毒といふ其名あさきり。其の瘡を兒の元氣自旺
小あるに従く。血中の毒を體外へ排達べし便路を得ざるもの
あり。あさき小く周身の毒を驅つくをべきと小ありねとも。早
是を胎毒ありと知ららば。速小愈あつて欲あつとなく。少も多く
膿を醸て毒を去の策を為べし。瀉藥あつて大小禁浴とき小も眼
驗あつとの外も。瘡あるとあつて洗灌べらざらば。安小貼藥をへら
ざ。まゝ其まゝ、小おくときた。外邊乾燥て固あり。裏小膿を醸と
いへども。洩出べし道あつとく。毒氣再内攻をさつとあり。故小

外より呼膿膏を貼過小誘導べし。血中小潜藏て見ざる以前小
らさせるあつとあつても。既小發出さるものを誤り内攻せしむは
ハ。忽變トく種々の病とある。小兒の驚癇疳疾および眼耳諸件
の疾も。此頭瘡を速小愈さるより發もの多し。こは意を潜て顧
とバ自知るゝあつとなり。こゝ小末叟の藥小乏ものゝため小一
方の用やときものを示べし。其方々牛房の實の生新ものを細
末小く皮を篩去。さて其末を胡麻油小くよきかざ小和調頭
瘡へ心よもの摩貼べし。藥舖小跋日栗膏といふものあり。そは
小和て貼ら尤よし。頭瘡愈て後眼病油耳あつと患ものゝ。其の膏
を頭へ貼て其毒を導べし。顛門へ貼る効尤速あり。そのとき小

る貼ツケべきささりを湯ユ小くよく洗ヒキて垢カと去トて後施ノチツクべし。油アブラを厭イヤものら飯糊メシロリ小く調チカラもまよ可ヨシ。あま小く効カクをたもの小く發ハシ疱膏バツゴウを用ヒキべし。まよ其裏ソノウラ小膿ウミを釀モテごも。外邊ウツト乾涸カハキ痲脫マツトのぬるものら。膠粘トリモチを紙シ小攤ノて貼ハラ。あはらくかきて放去ヒツタテ後跋ノチ日栗膏ヒツリカウの類ルビを貼ツケもよ。毒ドクを誘ユス小必効カナラシカラある藥劑クスリを數多アマタあまごも。その辨ワカもかく妄用ミダリニても害ガイあらんあよと代恐オソレて記ヒキど。雞卵タマゴ。松魚ササナギ。鰻鱺魚ウナギ。牛旁根ウシバネあごを餌エサ小させよ。

小兒の病を槩オシて蟲ムシといふ誤アヤマを説

小兒の病ヤクを俗ゾウ小むいといふる。むいドクゴを同語ドウゴ小くもと初生ウレヒコのら急イシはさ邪ヘン里シヤウを變ヘン蒸シヤウといふ類ルビ小同オシく。微熱ホメキある證シヤウを稱トク来キタリ古コ

言コトあるべし。もよ志シあらん小蒸ムシの字ジの義ギ小く。蟲ムシの字ジの義ギ小く。あらざるものを。蚊クワシ蟲ムシといふ蟲ムシら小兒コドモ小あとさら多生オホクシヤウトく。害ガイを爲ナスこともや、多オホけさば小や。槩オシて小兒の病ヤクをむいといひて蟲ムシの義ギとのまかもふ。俗家シロウト小くあそさることあまごも。醫イ士シヤも志シの意得トモさる輩トモま、あり。あはらく俗小ゾウ從シヤクふとならば。い小稱トナ人も害ガイをた小。自オノ己レもその病因ヤメノモトまを志シの謬認アヤマリたるもの多オホクあり。その甚シカシさよいさまら。小兒の萬病マンビヤク蟲ムシより起オシるといふ説セツを爲ナスものあり。是コレ名小ナ由ヨリ實小ジツ惑倒マドフ見ミあり。その尤憎モウモシクべきもの。傷寒シヤウカン。瘧疾オコリ。痢病リビヤウ。泄瀉ハラクダリ等ナドはで小も。蟲ムシといふ名ナを冒カケりて。其治法ツツガホフを誤アヤマるもの多オホク見ミえさ。俗家シロウトもこの心ココロを得エざさ。あまご

ため小愛兒カハニキコを害コトス小いさるべし。かくらひへどクワイチ蚊蟲ヘシの變ヘシより摘ビツ
搦ツキ驚癇キヤウフク顛癇テンカン等を發ハツ。或ズレち痺疾カンをともなりさるを。其クワイチ蚊蟲ヘシを
下タゲて効カウを得ウルハ常ジテ小多オホ也バ。蟲ムシを名ナべたもの絶タビて無ナシといふ小ち
あらど。必カナラ一偏ヒトカタ小聽キ疑惑ウタガヒあるべらど。其クワイチ纖悉ハシキあら俗ヒコク
家の會得ユトクをべきことあら祓ハラバ畧リョクぬ。まハ小兒コドモ小傷寒シヤウカン時疫ジエキを
一といふものあり。こと大オホなる誤アヤマリあり。小兒コドモとくも同人オトナヒトあり。此
病無ヤミナシといふ道理ダリやあるべきか。偏見アヤマリより。傷寒シヤウカン痢病リビヤクをどの
劇急ハゲキミ小快藥クワイヤクを與ユべき機トキも投ナゲむ。或ズレち蟲ムシといひ痺カンを
呼ヨビ加カ之ノ痢病リビヤク小痺痢カンリといふ濫名マンナまでを稱マカケ。遂ツヒも治チを誤アヤと
あり。よく意得イデべきあらどもあり。

痘瘡ハムサカのふ、ろえをさく

痘瘡ハムサカハ我邦ワガクニの往昔ムカシ小無ナキところの病ヤミあり。其起原オコリを檢ケン小。人皇ニギハヤヒ四
十五代ニヤウム聖武セム天皇テウの御宇ギョウ新羅シンラより初ハジメて其毒ドクを傳ツラシ染シメて。天下テンカ小
蔓延ハビコリて老少ラウセウ男女ナンニョことく病ヤミさりといふ。まハ延曆エンリヤクあ
まの記載コトを見る小。年トシ三十以上サンジウジヤウのものもとく病ヤミ小卧シ。その劇ハゲキ
ものち死シをとある状カタチ今麻疹イマハシカの流行ハヤルの如ゴトク大人オトナ小兒コドモとも小
いまだ病ヤミさるものも必免カナラむ。流行リウカウの期相距キカヒこと數十年ス小及おより。
中夏チュウカ小也トウ東晉トウシンの時代ジダイ小南陽ナンヤウといふとある小虜チビを征伐セイバツあり
一ハ小軍卒グンゼイ始ハジメく其毒ドクを染シメたるを其初ソノハジメとして。闔國カウケツの患ウレヒとなり
さる故ユエ小。當時ソノトキとを虜瘡リョウサウと稱ヨビ。これ惡毒アクドクの氣キありと見え。或ズレ

此瘡西域より東して海内小流ともあはれ。中夏我邦とも小
振古たえてあき病あり。異域より其毒を傳たるあはと燎然
かり。今の世小いよりてち。其一生小必一患べん病とのみかも
ひて。傳染の毒あるあはとを解ぶ。其兒の此患小懼を賀こと世間
の通弊とありたるを止むとを得ざる小出さるといへども。そ
こまゝと慘怛とあらむや。如此天下一同必患べき病あらも。
邊鄙小も五七年或も十餘年を経く流行する地境あり。江戸小
ら歳々絶ざるあはとくあはれども。近き高位貴族のたびくの流
行小免て或も年長まづも病ざるものあるを見せむ。あはれ全氣
運小もよらむ。胎毒小もあらむ。斷然一種の毒氣小く。傳バ患

深ざれ病ざるの道理まゝ明白あらむや。をて小八丈嶋五嶋
あはと小も近來までも疱瘡を患ふとあらむ。夫人の知とあ
らむ。あはとを避バ免べき病あらむ。其事小至りてち實
小爲得た。かくのあはととき毒のかくのあはとく繁衍て。あはれ
ため小死する人の衆多も。をてより自然の道理ありて然あはと
ころいひあはらむ。まゝと嘆べきの至あり。あはれを支那の醫人
の胎毒の説を唱たるに雷同。或も蟬の蛻小たごへ。まゝと構
精中の滲液とありといひ。或も氣運時令小因の病ありあはと無根
の邪説をいひふらむ。遂小其毒の所由を知るの無故小古今
治法聚訟誤多し宜あり。是れとんと天刑病小も類似する瘡疾

小して。生民の艱厄。國家の災害。あの上あき小。絶く覺者をく。た
名利小走貪濁の豎人等。その時行をまつと。慈子の遠征よ
里歸を待たばとくなるも。其心いふ小ぞや。かく痘瘡の毒の人
より人小傳く。火の燃がぶとく劇甚ことを知るの後ろ。麻疹の
西より東小流來。天下一同患つくせむ。突然と一人の患ものあ
く。再數十年を経くまゝ流行するも。あは異邦海船より毒を輸
とあるあること明小察し知べし。痘疹は今小はいくら此國固
有もの、やうになりて絶あをけむ。いふも其源を塞毒
氣を驅つくまに策あけむ。麻疹も今小もあれ外國との通
船を禁て。其由り來とあるを杜絶あべ。必其毒を轉輸あとも決

し。有あをあるべし。痘疹を避んこと。僻邑山村小於ても易
あをなむと。都會の地小在くら大小爲のたきあを思べし。
あをあれども。予恒小意を留く。他の危険病患ある。又も病
愈て後虚羸たる兒あどのいま。痘せざるもの小會ハ。避らる
べし。理を必其家小提醒。あをため小當時の痘瘡を免し。めた
るもの多。世間小子を多産する者。いつも二歳もくも三歳小
至る必痘患小罹て死にゆる類あり。あは其兒の性質小然べ
し。理あること小く。設其年期を過く後小痘を患とさむ。多も命
を隕不とのあをあるはものま、あは。あはら尤其年期を避
しめてよし。就中毒の尤猛烈小く。病もの十の七八も必死を

る年あり。いゝるに此の流行もいゝにも避く患ざるやう小を
危れおとなり。この五六年前の流行も。特小危険症の多
し故勉て人小夫のことに代授て。予が教をよく守りぬ。避得
るものも多のまき。遂小患へきもかゝるとき小をあるべき
たけ傳染さるやう小をべきおとなり。はと流行の盛小からぬ
最初と。近隣おこく患て。痘瘡の巷説もや、歌たる落後小係
ものも多る。輕。この事も意得く益あることあり。志のあはれ
もいゝに意を注ても免得ぬ。おはれ為小死をるもまの天命也。
其毒を轉染ハ。もより幽微小く測べのらざるおはれと
いへとも多ハ痘家の器物衣服小着て輸まの痘兒の氣小觸る

小より傳近隣をこを風の往來小瀉まの醫人の痘兒を
診て。その臭氣暨の體小著く未銷ざる小。そのま、来て兒を診
より達あり。痘家へ過く遂小訊ものよりも染。或る痘家へ往來
する幼童猫兒およりつたふるもあるべし。志のあはれおの
毒の猛烈走竄おはれ。火藥の逆おおはれもの小く。來も去も
駛疾おはれ。いさゝの毒氣小觸たるも。その散ざるおはれ。ま
時を過さぬ。故小程を經さるる傳染の恐あるおと小あら孫と。
細小心を致暨士も稀あるものおはれ。痘毒近傍小流行を知ら
鑿の由く來おあるを問ても。痘兒を診てかどを經ざらん小
ハ。この兒小病ありを診を乞おとも用捨をべし。況家人も痘

家へ省たるまゝ、小く衣服をも更む兒の側へよるべらむ。兒
を抱く通衢を往來をべらむ。痘家より齋來もの多し。いさゝ
も兒小示しむるらむ。痘兒を葬る墳墓ある地へ兒を携て
行べらむ。暑月尤薰蒸て感冒やせし。まゝ痘兒の故衣服をそ
の毒染着て。年月を経ても銷せ未痘兒こそを着て傳染たるも
のを予正小見よむ。市小購たる故衣を晏小兒小着しむべら
らむ。まゝ盤の痘兒小刺たる鍼よりも傳染おとあれむ。あむら
まぐも心を回し。かく百計しよむ。或は戒懼おと毒蛇のごとく
あるも。なほ冥々中毒を轉輸ものあむ。實小こそ戒避とあら
ば。痘瘡の流行さる地へ兒を携て去むらく避小るむ。かく

るいへども。幽冥不測小傳る毒あむ。今の世小ありく貴人
もまゝ免もの希あるを。況屋を比戸を接て。往復絶ざる庶民の
家小かいをや。一次避得たりとむ。遂小免べき小あらむ。幼
弱小く病さむ。年長て必患。年長て患もの。幼弱小く病
もの。よりも危険おと多か。是を避さるもまゝ愈里己小異邦
小種痘と。他の痘を患もの。膿若く痂を取て。いま病さ
る兒の肌膚小貼て。をやく痘を發しむる法ありと聽り。予が今
あゝ小避べは術を語ら。平常をいふ小あらむと知べし。さて
痘瘡鄰側小流行と。小兒微も熱あらむ。その序熱の序熱小あ
らざる。或考むるべし。此時風邪と相混りて別るとはものあ

色ども。仔細ニマヤカ小觀カミヤれを差異ニヤバツを免シふあらざ。險痘ケントウを序熱ジヤミより最其コトナク
用意ヨウイあるものを免シべ。輕忽ニルカセ小思オモフふとなく。予の述シべある小心コウシンを
潜カクレる會得エトクあるべし。

痘瘡トウソウの序熱ジヤミを風寒ヒトカゼ邪熱シヤカネ小類ニヨリ似ニく。辯別ベンベツを免シふおこしといへ
ども。意ココロを加クく熟察ジュサツを免シべ自明オノミヨシあり。その熱チウ初往來シツサイヒキありく。漸小シヤウ
甚シタカシクありく更さら小歇シヤムふとなく。熱來チウライを貪眠チンミヤ睡裏驚悸スイリキョウキ或シち搐搦ビクワキ心
下オチ輕按カウクオシても苦慙クルシキ情狀ヤウスあり。氣喘キケン涙ナミダを流ナガシ。眼傍ガンボウをべて腫ハレするの
とかもへる、毛モウの。及腰脚オウヨウキョウ沈重シムカチチ狀ありく行步ヤユミ整サツマツむ。甚シタカシク脚軟キョウナクて
立タツふと能オウさるもの。おまら皆序熱ミナジヤミの候トキと知シべし。このうち小搐ビク
搦驚悸ニクモオドロキをるも。痘瘡トウソウをら縁ヘリと。小兒熱チウニヤウあると免シふ多オホクあるおとあ

と。おれをる里サト小コく決定ケツヂヤウするたぐ。諸證ショウシヨウを參互カンガヘアハセく後辨ノチワキス知シべ
し。鑿イシヤも蒼卒サウソウ小省過シスゴスもの多オホけきなき。患狀シヤウ々々の母預記カネコノツケ得
て遺漏オチをきやう小鑿イシヤも告ツクべし。搐搦ビクワキ劇ハゲレけ免シべ。上吊直視ウラメヲツカヒメヨミ人事ヒトノミナ
不省カヒナキ小いたるものあり。失措ウロタユべららど。痘瘡トウソウをらば必カナラシク回復ナホルべし。
予の拊水術フスイジュツを用ヨウくいつも驗ケンを得ク。この時トキ小灸コウキウをるおと先マサを禁イム
べきことあり。偶灸オウキウ小宜ヨロシキものあきども。病家シヤカ小その差別シヤベツの爲ナシに
たけきを。とべくせぬおよし。まゝ序熱ジヤミの甚小ウヨキ衣服キルモノを重襲オホクキセて暖アタ
煖タカあるを後ノチ必害カナラシクガイあり。まゝ清涼過サマシスギルもあし。平常ヘイセイよりも微温スコシクアツカをら
んのおかもふ度をよしと必鬱蒸カヒス、ムシツカしむべららど。おこ小頭巾グキョウ
を着カキルおと。嚴冬フユムキ凝寒サマサの時節トキセツありとも宜ヨロシららど。必切禁カナラシクキムべし。痘トウを

頭面アタマホ小多發オホクハコバ一スミ救スミおたき小いコさるもモ十ジウが八ハチ九ク頭巾ヅキンの害ガイ
あり。頭アタマを過アタリ小温暖アタハカあらしむるコにレる。之コレ小由ヨリく氣衝キセウ上迫ウハツリの勢イキセ
を増マシく。之オモキの重オモクものも兒コを害コス小いコさる。輕カキものもあなオその宜ヨシこ
らさるを見るミ。必カナラ頭面アタマを覆オウおイムにイム禁イムをイム。この巾子ツキン小よりコく世
上ウヘの嬰兒コドモを亡シユおと幾イクバク何ナニぞや。尤モトモト嘆ナクべに弊習テキナラシあり。慈念ジニンあらん人
ら此コノ一ヒト事コトをたツ小も勉ツトメく人ヒト小教諭コウサツて。其ソノ惡習アクナラシを變カしめタ。大オホある
陰イン陽ヨウあるオシ。一ヒト已ハのオシとオモフ者モノ過アヒべオらオむ。已オシの子コを愛アイする念ネン
より。他ヒトを利リ益ヤクするオシことをオシまオす。その餘慶ヨケイ已オシの子コ及オホく。自オシ
然ゼンと病患ビヤクを免ムクおシあるべし。おシ予オホの衆人オホタヒト小望コノゾクところあり。序シ
熱ヤミの間ウチ。最トシく頭部カネラを清涼サマくム鬱蒸ムレルおシなく。腰脚コシもいオシる小も

温暖アタハカあるをよオシくオシ。脚タビもヒユ冷ヒユるオシ。脚爐コタツ小く温アタハことハ決ケツ
て禁イハべし。唯タ至イタ熱湯ネツタウ小鹽シホ少許シウコを和脚カキとオシくと温アタハく後ノチ乾カる手テ
巾ヌビを以オシくよく拭カてオシて後ノチ衣衾キモノを纏マて暖アタからオシむべし。冷ヒユハ
再マタ三サンかくのぶオシとくオシべし。乾菜タイコン煎ヒ葉アヒ或オシ忍冬シムカヅラを湯ユ煎セン
て。膝ヒザより下ウチ内外ウチノウチ踝シラ足心ソコまオシぐもたオシびく温アタハさるオシこと益マシよし。胡菜ハニ
煎ヒ葉アヒを用オシするもよし。鹽包シホを煎センたる湯ユも可オシ。痘兒ウツサウを居室オンザキをヒロ
潤キとオシるを良ヨシとオシ。蓐トコを室オホの中央マンナカ小安トリく。前後ゼンゴ左右ウヂ人の往來ユキカヨヒ自
在ユキあるとよしとオシ。室裡オホク小人居オホク居オシべオシらオシば。兩ニ三サン輩ニを限カとオシべ
し。小室コザシキをオシらオシる人ヒトの必カナラを欲コム。一家イツケン小數子ニサンニ瘡癩ハツサウを患ヤミ時トキ同室ドウトウ小
居オシむるオシ甚オホク禁イハ煩痘ヘンも變カトオシて危オホク險ケン小かもむオシくことあり。必カナラ別

小居オラ一むべし。も一卑賤ヒホクニシ小く別室ベツマをかきものも。嚴醋キツクス二合ニカウを器小
盛イレく席間ヤシタチ小安オク。又々熾炭スモビを醋中スノチ小投イレてをりく室内ヤシウチを薰フスベさて
板障アマド亮隔レヤウレを關ヒラキてその鬱氣コモリタキを排洩モラレてよし。空濶ヒロキザキありとも火爐ヒバチ多
安オシべのらむ。をべく温涼ワテサマ平常ヘイゼイ小異オヒなきをよしとむ。痘兒ハクサウコを久抱ヒサシクイキ
及懷マタ小入マツく寢イダ一むるも好コトシのらむ。かるべきさけ下小卧チカしたる
うさよ。食膳シヨクモツ下飯サイノ汁レシあるもの。飯イシまさハ粥カユの類ルキ小くも。ある
べきたけ暖アツカあるものを用座シマ。鐵子テツシを喫クハ一めんよりも。醴酒アマザケま
さ葛湯クワユ。大麥ムギユ霜糖サトウユ湯ユかどを用ヨさよ。泥滯ナミやを兒質ワケの兒コ
あさらの類ルキも消息ヨシヤあるべし。渴カハキあるものも白湯サユを多用タビたるこ
さよ。好茶ヨイチャを喫クハ一むるかと最トクワよし。序熱ジヤヒより上品チヤの茗茶チヤをり

く喫クハ益多エキオホシ。最善サイジヤン眠ネもの小も氣烈キリキものを多濃煎オホクコクセント藥小換ヤクて喫
しめく殊効ハナタシあり。渴カハキあき小もをりく湯茶ユチャと與アヘてよし。尤モトモト一次小
多服オホシ一むべのらむ。大渴オホシて生果シウカを好コトシハ。香椽クワン蜜柑ミカン。梨子ナシ。葡萄ブドウの類
少オホシづ、與アヘても決ケツ一く害ガイあるもの小あらむ。たゞ消化コナレお一兒も
のを禁イムべし。魚肉ウヲハ羹汁ニールを良ヨシとむ。雞卵タマゴも豆油汁マメアブ小く煮ニたるも
用ヨクべし。湯煮ユデたるも泥滯ツカユやを。たゞ魚肉ウヲを少オホシづ、をりく喫クハ
めたるがよし。必過カヒスス可スベガらば序熱ジヤヒよ正收カセ靨セ小いたるまで食禁シキの
意得カシ小異カシ大とあしと知シルべし。大便ベニ下利ゲリこと。見點ミテの後ノチを宜ヨシのら
む。まさ秘結ヒケツをるかとも好コトシのらむ。序熱ジヤヒの中ノチ尤大便ベニの通トトなれ
を嫌キラフも一大小秘結ヒケツをるかとあらむ。輕下劑カクキツシヤクを用ヨクべし。過泄タダシ一む

危カクレーヤのらど。高イシヤ手トヒカある。醫キルモノ小トヒカ諸トヒカべし。衣キルモノ服モノも日トヒカおと小トヒカ改トヒカをよしとど。
 被ヨキフ褥フシも日トヒカ々トヒカ新トヒカ小トヒカ汚トヒカ穢トヒカをトヒカ紅トヒカ毛トヒカの小トヒカ毛トヒカをトヒカべし。緊ハダギ身トヒカも最トヒカいさ、このも
 垢ヨゴレ汚トヒカる臭クサミ氣トヒカあるも用トヒカべのらど。枕マクラともをトヒカりく更トヒカべし。窮ビシホフシ乏トヒカを
 至ナレニとも爲トヒカ得トヒカた紅トヒカ毛トヒカといトヒカあらば。懈オコタリ怠トヒカく忽ニルカセ棄トヒカ小トヒカ毛トヒカをトヒカべ。毒ドク氣キ内ナイ
 攻コウの基モトとある大トヒカとなり。初シ中レ後ウこの用コ、ロエ意カン肝エウ要ヲあり。志トヒカあるを近チカ
 頃ゴロ痘ハク疹サウ科クワと稱トナフる醫リ派ウギあり。さあらぬ説コトをいひふらし。痘ハク兒サウの
 卧カマ内ナリも塵チリつをトヒカるとも掃サウ除ジとべのらど。衣キルモノ服モノ被ヤ褥ダも更トヒカべのらば
 と。病トヒカ家トヒカ小トヒカ教トヒカるものあり。大トヒカある謬トヒカ妄トヒカ小トヒカく。痘ハク兒サウ小トヒカ巨オホ害ガイある
 大トヒカとく。首ハシメ卷マキ着キ病トヒカ意トヒカ得トヒカの條トヒカ小トヒカ述トヒカぶとくかど。參カン閱ゲくその非トヒカと
 了サトル解トヒカべ紅トヒカ毛トヒカとなり。まゝ痘ハク瘡サウ中チウ母ボもくく乳トヒカ母トヒカの攝トヒカ養トヒカの。前トヒカの

○痘瘡の序熱小播擲上。不省入車小い。すりもの小拊水術の「法を
 施小る。冷水を手中小浸して。兒の頭上を頻小灌洗。面部ともあらひその
 水やぬるむと紅毛の再冷もの小換く灌こと八九十遍小
 いたり。頭面の肌膚冷て氷のごくある小至て止。と一醒
 覺と違もの。冷水蓋を内服せめて治さることあり。
 いづれも見とらひのあること也。史記大倉公傳云。
 菑川王病召臣意診脈曰蹶上爲重頭痛身
 熱使人煩憊臣意即以寒水拊其頭刺足
 陽明脈左右各三所病旋已病得之沐髮未
 乾而臥診如前所以蹶頭熱至肩とあり。
 拊水の名及術蓋此小採也。痘瘡序熱。
 卒厥を發さるもの小この術を治用。く
 其急を救。且起脹灌膿の期小至く巨利を
 得ことあるら。予少發明多年經驗の事小
 しく。其必効あるものを認て施行こと世人もや、知
 ものあはれども。の守抗刺舟之醫らば、首肯せしむ。
 ことかま。俗家の唯其効あるを信トて用。を。



痘の先額上小發見るもの序熱の頃より其兒喜眠やもと云ハ掃掃を發一内攻一易ことあるハ毒の頭面小上迫こと多るハ眉の間の上下小多發するハ下咽喉と相應しく聲必々々々々々咳或ハ咳嗽を發以鼻頭小多見入下腸胃小配を故小起脹灌膿の時小至下利を促易も一過く抓破もは其部分の應どうころ小の變を見いころ常小多驗知ころあり按ざる小靈樞五色篇云庭者首面也關上者咽喉也關中者肺也下極者心也直下者肝也肝左者膽也下者脾也方上者胃也中央者大腸也挾大腸者腎也當腎者臍也面王以上者小腸也面王以下者膀胱子處也額者肩也額後者臂也臂下者手也目内背者膺乳也挾膺而上者背也循牙車以下者股也中央者膝也膝以下者脛也當脛以下者足也巨分者股裏也巨屈者膝裏也至當明部分云云このこと也觀相家小傳云面部を周身小配當一病處黒痣を知べき術の類小く相家小ハ兩眉と手



一法令と足と。或ハ準頭を背部小配と等の説やこと異ことありと雖全醫家四診中の望の其一小具をたもの古昔の遺法今五行家の書小存とるもの小く古今二千年來知人のたれハと疎漏ありとす此配當小其證ありと的實小今ハ施用べき事ハ發明の説わよとも俗家の預さるておれハ記載此小唯との界圖を舉て首護の一助小供まらあり

條小説する代ゆめく忘失おとかく意を注ぐ慎持べし痘の吉凶も序熱と見點の中小あり起脹灌漿の善惡ハおの裏小預定ことおれハ最保護の喫緊とるおとなせま序熱より温暖をらむべきと清凉をらむべきとの區別あるごもそらのおとち辯析をさく假令説得たるも容易領會をさけさるそのおこの省ぬお不婆心意得させたるハ痘瘡を患ることその貴賤の級小より差あるおとち越前小く乞食の兒の瘡瘡を患たり一話を看病意得の條小載するおおとれを相照てとべての病者との慣来する平常と懸絶あるをよこととるおこと也第一の意得と知べし

見^{アソコヒ}點^{チウ}ち。熱^{アサカサミル}あ^{アサカサミル}ま^{アサカサミル}く^{アサカサミル}より五日^{アサカサミル}めの朝^{アサカサミル}痘^{アサカサミル}見^{アサカサミル}もの^{アサカサミル}を順^{アサカサミル}痘^{アサカサミル}と^{アサカサミル}も。赤^{アサカサミル}色^{アサカサミル}四^{アサカサミル}
日の夜^{アサカサミル}中小^{アサカサミル}出^{アサカサミル}さる^{アサカサミル}赤^{アサカサミル}色^{アサカサミル}也^{アサカサミル}。序^{アサカサミル}熱^{アサカサミル}の中^{アサカサミル}と三日^{アサカサミル}こ^{アサカサミル}く。四^{アサカサミル}日の夜^{アサカサミル}
を^{アサカサミル}見^{アサカサミル}點^{アサカサミル}と^{アサカサミル}定^{アサカサミル}る^{アサカサミル}赤^{アサカサミル}色^{アサカサミル}より^{アサカサミル}遅^{アサカサミル}る^{アサカサミル}苦^{アサカサミル}ら^{アサカサミル}ど。然^{アサカサミル}ど^{アサカサミル}も^{アサカサミル}發^{アサカサミル}火^{アサカサミル}と^{アサカサミル}遅^{アサカサミル}
く^{アサカサミル}宜^{アサカサミル}ら^{アサカサミル}ぬ^{アサカサミル}痘^{アサカサミル}あ^{アサカサミル}れ^{アサカサミル}ど。必^{アサカサミル}よ^{アサカサミル}く^{アサカサミル}と^{アサカサミル}い^{アサカサミル}ひ^{アサカサミル}の^{アサカサミル}さ^{アサカサミル}く。熱^{アサカサミル}あ^{アサカサミル}る^{アサカサミル}や^{アサカサミル}い^{アサカサミル}か
や^{アサカサミル}直^{アサカサミル}小^{アサカサミル}痘^{アサカサミル}の^{アサカサミル}見^{アサカサミル}ち。尤^{アサカサミル}險^{アサカサミル}惡^{アサカサミル}と^{アサカサミル}知^{アサカサミル}べ^{アサカサミル}く。ま^{アサカサミル}づ^{アサカサミル}頰^{アサカサミル}と^{アサカサミル}口^{アサカサミル}邊^{アサカサミル}小^{アサカサミル}見^{アサカサミル}て。後^{アサカサミル}小^{アサカサミル}額^{アサカサミル}
及^{アサカサミル}準^{アサカサミル}頭^{アサカサミル}小^{アサカサミル}發^{アサカサミル}る^{アサカサミル}順^{アサカサミル}小^{アサカサミル}く^{アサカサミル}吉^{アサカサミル}と^{アサカサミル}も。額^{アサカサミル}準^{アサカサミル}頭^{アサカサミル}より^{アサカサミル}先^{アサカサミル}小^{アサカサミル}出^{アサカサミル}く^{アサカサミル}後^{アサカサミル}小^{アサカサミル}頰^{アサカサミル}小^{アサカサミル}
見^{アサカサミル}へ^{アサカサミル}逆^{アサカサミル}あり^{アサカサミル}と^{アサカサミル}も。赤^{アサカサミル}の^{アサカサミル}面^{アサカサミル}上^{アサカサミル}小^{アサカサミル}痘^{アサカサミル}の^{アサカサミル}發^{アサカサミル}見^{アサカサミル}部^{アサカサミル}分^{アサカサミル}を^{アサカサミル}以^{アサカサミル}く^{アサカサミル}逆^{アサカサミル}吉^{アサカサミル}凶^{アサカサミル}を^{アサカサミル}判^{アサカサミル}
斷^{アサカサミル}火^{アサカサミル}と^{アサカサミル}も。確^{アサカサミル}乎^{アサカサミル}ある^{アサカサミル}道^{アサカサミル}理^{アサカサミル}あ^{アサカサミル}れ^{アサカサミル}ど^{アサカサミル}も。古^{アサカサミル}人^{アサカサミル}の^{アサカサミル}論^{アサカサミル}ト^{アサカサミル}及^{アサカサミル}もの^{アサカサミル}も^{アサカサミル}な^{アサカサミル}け^{アサカサミル}ど
バ。其^{アサカサミル}何^{アサカサミル}の^{アサカサミル}故^{アサカサミル}ある^{アサカサミル}赤^{アサカサミル}と^{アサカサミル}成^{アサカサミル}知^{アサカサミル}人^{アサカサミル}も^{アサカサミル}ま^{アサカサミル}と^{アサカサミル}希^{アサカサミル}あり^{アサカサミル}。も^{アサカサミル}と^{アサカサミル}よ^{アサカサミル}り^{アサカサミル}俗^{アサカサミル}家^{アサカサミル}小^{アサカサミル}告^{アサカサミル}
諭^{アサカサミル}ん^{アサカサミル}も^{アサカサミル}益^{アサカサミル}な^{アサカサミル}き^{アサカサミル}と^{アサカサミル}も^{アサカサミル}赤^{アサカサミル}也^{アサカサミル}。發^{アサカサミル}明^{アサカサミル}の^{アサカサミル}說^{アサカサミル}あ^{アサカサミル}る^{アサカサミル}も^{アサカサミル}此^{アサカサミル}小^{アサカサミル}ら^{アサカサミル}い^{アサカサミル}た^{アサカサミル}げ^{アサカサミル}。ま^{アサカサミル}と

予^{アサカサミル}の^{アサカサミル}歷^{アサカサミル}見^{アサカサミル}と^{アサカサミル}あ^{アサカサミル}ろ^{アサカサミル}小^{アサカサミル}く^{アサカサミル}ら。假^{アサカサミル}令^{アサカサミル}面^{アサカサミル}部^{アサカサミル}稠^{アサカサミル}密^{アサカサミル}あ^{アサカサミル}ら^{アサカサミル}ど^{アサカサミル}と^{アサカサミル}も。頭^{アサカサミル}上^{アサカサミル}髮^{アサカサミル}中^{アサカサミル}小^{アサカサミル}
痘^{アサカサミル}の^{アサカサミル}多^{アサカサミル}出^{アサカサミル}さ^{アサカサミル}る^{アサカサミル}善^{アサカサミル}の^{アサカサミル}ら^{アサカサミル}ぬ^{アサカサミル}證^{アサカサミル}小^{アサカサミル}く^{アサカサミル}。ま^{アサカサミル}、不^{アサカサミル}慮^{アサカサミル}の^{アサカサミル}變^{アサカサミル}小^{アサカサミル}逢^{アサカサミル}と^{アサカサミル}あり。
必^{アサカサミル}輕^{アサカサミル}視^{アサカサミル}と^{アサカサミル}べ^{アサカサミル}ら^{アサカサミル}ど。赤^{アサカサミル}の^{アサカサミル}證^{アサカサミル}と^{アサカサミル}序^{アサカサミル}熱^{アサカサミル}中^{アサカサミル}頭^{アサカサミル}巾^{アサカサミル}を^{アサカサミル}着^{アサカサミル}て^{アサカサミル}頭^{アサカサミル}を^{アサカサミル}冒^{アサカサミル}も^{アサカサミル}の^{アサカサミル}小^{アサカサミル}
多^{アサカサミル}。恐^{アサカサミル}べ^{アサカサミル}く^{アサカサミル}頭^{アサカサミル}髮^{アサカサミル}あ^{アサカサミル}る^{アサカサミル}兒^{アサカサミル}と^{アサカサミル}ら。赤^{アサカサミル}を^{アサカサミル}痘^{アサカサミル}熱^{アサカサミル}あり^{アサカサミル}と^{アサカサミル}正^{アサカサミル}小^{アサカサミル}知^{アサカサミル}バ。髮^{アサカサミル}を^{アサカサミル}
の^{アサカサミル}こ^{アサカサミル}り^{アサカサミル}あ^{アサカサミル}く^{アサカサミル}剃^{アサカサミル}た^{アサカサミル}る^{アサカサミル}も^{アサカサミル}よ^{アサカサミル}く。毒^{アサカサミル}深^{アサカサミル}も^{アサカサミル}の^{アサカサミル}小^{アサカサミル}く^{アサカサミル}く^{アサカサミル}頭^{アサカサミル}熱^{アサカサミル}と^{アサカサミル}も^{アサカサミル}多^{アサカサミル}ハ^{アサカサミル}危^{アサカサミル}
險^{アサカサミル}小^{アサカサミル}か^{アサカサミル}も^{アサカサミル}む^{アサカサミル}く^{アサカサミル}剃^{アサカサミル}た^{アサカサミル}る^{アサカサミル}も^{アサカサミル}よ^{アサカサミル}く。但^{アサカサミル}し^{アサカサミル}剃^{アサカサミル}た^{アサカサミル}る^{アサカサミル}あ^{アサカサミル}と^{アサカサミル}へ^{アサカサミル}ど。油^{アサカサミル}酒^{アサカサミル}
や^{アサカサミル}う^{アサカサミル}の^{アサカサミル}も^{アサカサミル}の^{アサカサミル}拭^{アサカサミル}搽^{アサカサミル}單^{アサカサミル}の^{アサカサミル}巾^{アサカサミル}を^{アサカサミル}用^{アサカサミル}て^{アサカサミル}霎^{アサカサミル}時^{アサカサミル}冒^{アサカサミル}さ^{アサカサミル}る^{アサカサミル}も^{アサカサミル}よ^{アサカサミル}く。む^{アサカサミル}さ^{アサカサミル}く^{アサカサミル}畏^{アサカサミル}
か^{アサカサミル}く^{アサカサミル}ら^{アサカサミル}宜^{アサカサミル}ら^{アサカサミル}ど^{アサカサミル}風^{アサカサミル}あ^{アサカサミル}く^{アサカサミル}寒^{アサカサミル}ら^{アサカサミル}ぬ^{アサカサミル}時^{アサカサミル}小^{アサカサミル}か^{アサカサミル}く^{アサカサミル}を^{アサカサミル}る^{アサカサミル}小^{アサカサミル}も^{アサカサミル}及^{アサカサミル}ぬ^{アサカサミル}赤^{アサカサミル}
と^{アサカサミル}思^{アサカサミル}べ^{アサカサミル}く。見^{アサカサミル}點^{アサカサミル}後^{アサカサミル}ハ。天^{アサカサミル}氣^{アサカサミル}沖^{アサカサミル}和^{アサカサミル}小^{アサカサミル}く^{アサカサミル}風^{アサカサミル}あ^{アサカサミル}く^{アサカサミル}ら。と^{アサカサミル}ま^{アサカサミル}く^{アサカサミル}抱^{アサカサミル}て^{アサカサミル}門^{アサカサミル}
巷^{アサカサミル}又^{アサカサミル}ち^{アサカサミル}苑^{アサカサミル}中^{アサカサミル}と^{アサカサミル}緩^{アサカサミル}歩^{アサカサミル}べ^{アサカサミル}く。室^{アサカサミル}奥^{アサカサミル}小^{アサカサミル}の^{アサカサミル}ミ^{アサカサミル}在^{アサカサミル}ら^{アサカサミル}氣^{アサカサミル}の^{アサカサミル}鬱^{アサカサミル}滯^{アサカサミル}赤^{アサカサミル}を^{アサカサミル}恐^{アサカサミル}

ハる。起脹。灌膿。收靨同意あり。

起脹三日の中ち。漿水を輸て粒々分明小紅暈多をよーこと。此
紅暈ハ紅絲を以て痘の根を纏るるおとさよーこと。締る
くたつたつとさよー赤さるとのまのらむ。咬牙あるる灌膿小
至て變あるる。虚里の動悸甚る尤恐べれ惡症小く死小瀕や
とく。決一々怒視あらぬおと也。善痘ら起脹あるる小疾膿を醸
して。灌膿の日に至バ收靨小おもむくものあり。か、る等ハ藥
を用む。自然小任てよー。痘多出るもの。涙出く開るされら。先
乳を點。おばらくあり。手帕端を熱湯小浸拭くむらのをべー。
毒の眼小入たるをそのお、おれく明を失たるものおはハる

舌小く舐てむらのをとをつともよー。舌小く舐て舐ん
どおもハる。よく漱口して後小をべー。眼中赤脉ありく色あ
見え。まの黒睛腫子小翳點ありこと。ハ。むやくその設為をまをべ
。輕視あるべのらむ。鼻中ハ痘多發たる。金銀花を煎して撒
綿絲小浸し。鼻中液をりく掃除をべー。こまも口小く吸出さる
尤よ。鼻渣あらむ。湯小くこくと去め。く空耳小くおまい
を癒し。そのま、小かくこきら。鼻塞て息の往来障。鼻涕咽小流
溜く。嘔逆を發し害さあるおとあり。故小小兒啼拒を強く速
車と濟べー。愛著し。爲得む。却る後の害を爲べけは。よく
くま、ろくべれこと小おと。

灌膿定期三日のあひど。膿色いゝ小も濃。白うち小黄を間光澤
ホンウミヒカズ クミノイロ コク キ オヒツヤ
 ありく圓滿充實て。痛あるもの尤善この時小いたりて。紅暈
マンマルニハソフ イタミ モトモヨシ トキ チンアカミ
 まま縮ありく。痘根をさりとと鮮明小纏絡するを小とくみ
シマリ デモチ アサヤカ マヒヒツ ヨキ
 ちるものより。紅暈散漫たるをあし。た赤見ちるものを吉ど
チンアカミ バツトレ アワク
 と意得く。急卒小周章あり。起脹中小あり。赤の紅暈縮ありと
キフヘン ウロタニル モツクミナチ アカミ シマリ
 いふうち小も。た直紅小根もさむり志のと志ままみゆる
マツカ チ
 をまづ佳さいひ。灌膿小ありて。紅蘭絲やうのもの小く緊く
ヨシ ホンウミ アカキヌイト ホビシ
 よりをさけたるやう小さりとと締縮ならぬあり。赤の差別を
シマリ シヤベツ
 よく領會べし。癢あるをよろし。起脹のあらばより膿色
コノロウ カクミ モツクミ ウミイロ
 を現ざる。灌膿小恬視をべからど。其白と瑪瑙のおときさるを
アスナ ホンウミ ユダシ シナウ

色膿たる小もあらど。志あるを庸醫の誤認て赤色膿よりと
ウミ ヘタイレト メカトク
 いふを信俚該小所謂足下のら鳥のたつやうある急變小逢て。
マニケコトワ イハニル アレモト トリ キフヘン アフ
 卒小狼狽あり。かゝる證を。其痘粒圓滿やうをさむも。心を
ニハカ ウロタニル シヨク ソノ マンマル
 留てよく熟者。皺あり。空虚あるものなり。故小不慮の變と
トメ スカシレ シワ カウロ ユエ フリヨ ヘン
 かもふも遺失あり。見點の初より逆その吉凶の知るあり。
テヌケ デツロヒ ハジメ カマテ シル
 又灌膿小微熱の發ことあり。苦あらど。大小發熱煩懣あり。下
ホンウミ ホメチ デル クルレ チ モイテ モイテ クダ
 利あるも凶と雖。元氣自然の運用によりく下利を促し。毒を腸
アリ イハニル ケンキ シセン ハタラクキ ラダリ モヨホ フク
 胃より除去て。それよりして順快小かもむくあり。と途
チ シキサリ ビニクワイ
 小もいひなく。餘症を參互て善惡決定べし。内攻をること小。
ヨ エヨク カガハスセ ヨレアレ サダム ナイコウ
 寒戰咬牙て。胸腹小動悸甚あり。下利ものあり。下利のさきも
ガクフル ハヨカシ ムチハラ ドクキ ハゲレク ラダリ クダリ

あり。六、に至るも能食ものも十小八九を治べし。穀氣をたも
のち救ふたし。初より食の進ものも起脹灌膿滞をく。たこへ一
二の佳のらぬ症ありとも難治小あらざ。良痘を痛こと常をよ
ごも。稀小を瘻ありても險惡のらぬものあり。さるいへど痒の
儘く吉のらぬ證なれば輕視をあらび。小兒を痒をも多の痛を
いひて分たれおとあり。故小旁小あるもの心を用て熟察を
べし。起脹灌膿の中小便小血を泄おとあり。こも尤難治あり
と雖。おとまこ一偏小を定おとたことあり。衄血の苦うらび。そ
も過多の速小止衄をあらぬものもあり。黒血を吐ものも駭
るらび。鮮血の恐べし。古人痘色の灰白を寒こし紫黒を熱こ

ととごも。寒熱を以て別を。治療の上小於く害あるおとあり。故
小痘色の白を見く。虚寒とのこ思ふ。鑿士をあらべ。療治を委おと
し。かくいふら大小深意の存こと小く。俗家小を論おとくまこ
明めおたれことあり。さく順痘の發出多といへども。速小灌膿
にありて。第三日小のをで小收鑿小か、るものあり。
收鑿三日の間へ。既小滞をく灌膿を經し。食の多少と二便の
通利小意を注の外何の鑿術もなし。險症の膿成ざるもの。收鑿
の日小いよりて死ぬるおとあり。故小險證へ定期を過よりと
も降心を危ららび。輕ものもこの時既小落痂もあり。然こも先
の落痂のこた小あり。壯實孩兒を少輕下劑を投く。腸胃中の

汚穢を掃除しよ。收醫以前より腹中小蛇蟲を生むるもの
あり。注意べし。もし蛇蟲ありと知べ。速小蛇蟲を下登し。灌膿間
も此蟲あると。意表の障あるべし。あて。落痂以後も淡薄食品
を撰用べし。一切過食しむべからば。勞怯く食味の失ものも。を
よく魚肉鰻鱺雞卵など此些づ。與てよし。喫過しくら大小あ
り。飲啖進もの小膏梁一切無用あり。米粥も粘稠を湯小あらひ
く喫志むべし。碎麥あともよし。酸澁其臍を不さら禁べし。
俗家小く酒湯といふあて。然古来よしを志ごも。瘡發多小早浴
をるるあり。大抵痂落つた後をよしと志。輕痘を志のらば。
世小底利耶加といふ藥を痘瘡小必用ものとするる大なる誤

小く。あての物瘡瘡小於てさら小其益あるを見ぞ。あてよ善眠も
のよも尤大害あり。多服志むるを志ごため痘兒を害こ
とあり。決し用べからば。
う小こうる。犀角あて安よ服しむるもあり。其他牡鶴の焼たる。
鹽藏鶴肉。あてび焼たるものなどを服しむること尤宜のらば。
臍帶亂髮爪あての焼存性も大小あり。あての物いづれも瘡
瘡よ効あるものにあらば。小兒の狭小腸胃あ小衆多の藥劑と
受容小堪んや。いたばら小苦意を増ことを思さるの甚れ。こと
暨俗の通患あり。
序熱あるやいあや。額よ準頭へ臍脂を貼ものあり。かくをれ

どその邊へ痘疹出ると少といひ習せども。この臙脂を貼る
小。眼小を見え絲。痘疹出るとくく皮下小出齊あるあり。ま
臙脂小か、る効あるおとも絶くあきをおと何事ぞや。依據も
なれ弊習小く。おの臙脂をぬりたるとあろ。痘色辨知のた
く。鑿の診候を誤ことあり。必無益のことなり。又てりやを
ぬるおと尤あり。

痘兒を平常より厚被ふささるる害をあたし。初中後とも決
くあるるまどおとあり。寒月小くもをりくく空の色を見
せあめてよし。風をきこれち門巷へ出たるも苦あらば。寒
風かよび器皿の冷たるもの。看病人の手足の冷さる。衣服被窩

の冷たるを禁べし。痘兒も一寒氣小觸胃くよし。變證出ると
速懐小抱て厚被ふ。温熱物を喫くめて微汗を取べし。然され
る内攻さるあり。も一乳を與ものもその意得小く。身を暖小
温物を喫てよし。

日輝燥烈とあろ小痘兒を安しむ。室のらば。闇室ハ大小あり。
渴あるものにも下利を恐て飲漿を禁ものあり。以の外の意得
たひひな里。渴あるもの小ハをりく飲液を用よしとさるお
とも。初小いふごとくな里。

過く酸味の品。至鹹もの。極て甘物との禁べし。
乳酒を用べしといふ人あり。證小よりて喫くめくよきもあ

ごも先へ禁たるおよし。兒の近旁小侍ものも飲ぬおよし。も
兒小酒を喫むべしものあらざ。乳酒小限登らば。
菜を食むるを宜とさるものあり。多へ停滞て化ぶさ兒もの
小くか危つゝ害あり。禁たるおよし。
虎子を枕邊小かくへよろし。らば。便下せしをりく小必掃除
しく臭氣あらしむ危らば。
月經の婦人先ち用捨あるべし。止ことを得ざら衣服禪までも
を更く更く抱持をべし。
痘兒着護の人ちをべく衣服の穢垢たる臭氣あるものを着べ
のらむ。清潔あるをよしとむ。

癆瘵鼓脹の病あるもの。かよびをまらの病者を看護したる輩。
傷寒熱病を患。愈て後いまだ浴せざるもの。かよびをまらの病
あるものを保護したる。その衣服をも更ぞく。痘兒小近よる
登らば。
母かよび乳媪微恙あるも。其乳を痘兒小喫むるおとち用捨
あるべし。はしく重病小か。里さるものも兒の近旁小侍小こ
も禁登たごあるを。病小由く乳質あしくあること小ち意
を注ぐ。與て止おさけむ。たごへ輕易痘疹を里ごも大小害
ごあるものあり。嘗て一婦人癆瘵の漸ありし。小其子痘疹を患
し。ハ予其乳を喫むるおとち切禁とさごも不肯して與し。

小。面部メンブ纒タカ小十餘顆バカリ小過スキざり。輕痘カロキヤウの忽タチ小内陷ナイコタ。く斃シニさり。を見たり。是コレ尤モトモ記得コ、ロエある處カにハとあり。

常小口臭シチシキもの。身體カラダ小惡臭アシキニホヒあるもの。旁ソバ小居オルべらば。瘡デモラを發ハツたるもの尤モトモ宜ヨシらば。

搔爬カキヤルことを禁イムむ皆人の知チこあるあり。こ色イロを禦ムカんとく袖狹襦ソデセキジユ袷アサを着キセしむるを好コトマしらば意ココロを注ツケて着護マモリくよし。強シヒく流俗セケン小

隨ツレんとあらば常服ツチノキレモの袖ソデへ單ヒトの布ヌを補添スヒソヘく。袖ソデを長ナガしたるあと。尤モトモ便利ベニなり。

下小卧フサしめたるまゝ、あるハあり。或アルヒと卧フサしめ或アルヒと抱イダキて專兒モトハラコの意ココロを轉テンせしむるのよし。

痘瘡ハウサウチウ中兒ナチキヤウをく多言タカコトあらしむ處トコロらば。たゞをりく意ココロ小適話カチラヒカガリを爲ナシく慰ナシヤムべし。

或痘瘡神ハヒトハウサウチウガミの有無アルナシを質トフものあり。予答コタヘく言イハクカシ神ありとかもふ人ヒトら必カナラ有アリとある。ろうタシカ正アリ小有アリとあるもの。清潔キヨク祭祀マツリく朝夕アサユフ小

禮拜ライハイ一タフトム尊崇タツトムべし。決カタしと惑マドラふとある處トコロらば。もしまゝ無ナシといふ人ヒトら。必カナラ定ヒツゼリありと決カタむ處トコロらば。有アリといふも理リなき小あらむ。無ナシと

決カタむるもまゝ理リあり。有アルの無ナシと疑惑ウタガハシなきはと可ヨシあらば。たゞ一方ヒトカタ小定サダメべし。有アリと思人オモヒの心ココロよまら。痘疹ハウサウチの見點ミツより收靨カセ小

至イタレまでも。其日期ソノヒドリあるを初ハジメとく。大オホとく不思議フシギあらざるを。神カミありとあると更サラ小疑ウタガハシべし。小あらむ。又また無ナシといふ人の

心ふらいつくよる神あるをば。痘瘡も一神あらば麻疹小もは
 神あるべし。もし然らば癩瘡肥前瘡小もまた神あるべし。其他
 傷寒。瘧痢。癆瘵。癥瘕。癰疾。癩病。百態千状の病一とて不思議を
 らざるをなし。痘瘡のこいさるる別小神あらんや。かゝる痘
 神の有無をその人小よる大と小して。いつまに定たりとも深
 害あること小あらば。予を預ざるごころなり。
 予幼く麻疹を患や。其苦惱甚かりしを記のこ小て。治術の
 大とも思もるけむ。近年又天下一般小麻疹流行し。江戸地方
 小もまた里一にたれ。以前のおとく炎熱の候小あらざる故の
 さしたる險證もなく。一人も此病小く死さるは聽ば。因る薬せ

を以て愈もの多けむ。其治法を委せむといへども。従前の麻
 疹の治術用薬の大小於ち少疑をたれ。大と能く。さとも險重
 の症小對。的確なる實驗を経たる大とある小あらば。今此
 編小を説べき大ともなり。また水痘の大小小いたり。断
 然たる一家の説あはむ。もとより輕易症小く。俗家小さ
 く示さる大ともあらねば。大とまた別小いとむ。大の病を直痘
 と相混して。老鑿もまた診あやまることあり。その痘瘡との異
 ち。面部の分派。よる背腰小多發見。食味もあまり變じ熱あ
 ると一時小發見。顆粒大小遲速あり。一齊小起脹せむ。こを
 以て辨別せし。且其患狀痘瘡を懸絶ありて。決して混同をべ

き小あらば。別小併症コトナレキの悩ネれものなく。多オホクハ藥せど。く治チま
 危ヤシれあり。そ一惡寒ヤムケあるもの。微感カロキヒキカヒ胃イふと。發散ハツサンをるやうあ
 る。投劑クナリ小て。必出齊ニラス デッロヒ小あり。速スに水漿ミヅを輸ハツて。不フどなく。收靨カセルもの
 あり。その間イヒタ小。二三顆トコロクま。こ。大半ウチ膿カモを醸カモもの。をほトたる。小
 とあり。その膿ウムもの。あるを見ミく。邊ニハカ小痘瘡ハツサからん。と誤認アヤシムこと
 あり。れ。をりく。か。る證シヨクを看ミルふ。とあ。は。は。の。証シヨクく。記得コトワエをる。危ヤシれ
 小。こ。なり。

病家須知卷之三終



